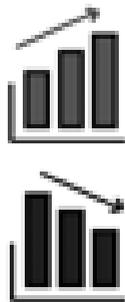


LESSON  
1

## まずは決算対策の基本と 目的を押さえておこう



決算が近づくと、社長から「今期は黒字になりそうだから、何か節税策を」と相談を受けることがあります。あるいは、「今期は赤字になりそうで資金繰りが心配」と声を落とす社長もいらっしやいます。ただ、私が声を大にして伝えたいのは、「決算月に入ってからでは、もう遅い」という事実です。

決算対策とは、単に「税金を減らす」ことではなく、「会社を整える」ことでもあります。数字を見直して、資金を守り、次の期に備える。そのためには、少なくとも決算の3ヵ月前から着手するのが理想です。

本稿では、「黒字見込み」「赤字見込み」それぞれのケースで、いまからできる決算対策の考え方と具体策を解説

します。経理担当者の皆さんの実務上のマニュアルにしていただければ幸いです。

### 「決算対策」の目的は 節税だけではない！

まず最初にLESSON1では、「決算対策の基本と目的」について押さえておきましょう。「決算対策」というと、多くの社長は「節税」を思い浮かべます。確かに、税負担を適正化することは大事です。しかし本来の目的はそこではありません。

決算対策の目的は、会社の経営状態を健全に整えて、翌期以降に向けた土

台を築くことにあります。「決算対策」とは、企業が決算を迎えるにあたり、税務上・財務上の観点から最適な状態で決算を迎えるための準備と調整を行なうことをいいます。決算対策を単に「節税対策」と捉えず、企業の経営成績や財務内容を正しく把握し、翌期以降の経営計画や資金繰りを安定させるための重要な経営活動と考えましょう。決算対策の主な目的は、次の3つの視点で考えます。

#### (1) 税負担の適正化

法人税等の税額は、決算の内容によって大きく変わります。過剰な利益を計上すると税負担が重くなり、逆に赤字では信用力が低下します。したがっ